

会 議 録				
平成22年度第8回 社会教育委員の会議	日 時	平成23年2月16日(水) 午前9時30分～11時30分	場 所	小金井市役所第二庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出 席 者	委 員	伊藤、倉持、小林、佐野、樹、中村、本川、各委員 (欠席委員)浦野、田尻、本多、各委員		
	その他	渡辺生涯学習部長、尾崎生涯学習課長、宮腰スポーツ振興担当課長、田 中図書館長、大関公民館長		
	事務局	林生涯学習係主事		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
次 第				
1 協議事項				
(1) 平成23年度教育施策について				
(2) その他				
2 報告事項				
(1) 第4回市議会定例会の報告について				
(2) 第23回多摩郷土誌フェアの報告について				
(3) その他				
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
2 報告事項				
(1) 第4回市議会定例会の報告について				
(本川議長)				
協議事項に先立って、部長から議会の報告をお願いする。				
(渡辺生涯学習部長)				
昨日より平成23年第1回定例会が始まっているため、冒頭に報告をさせて頂く。 では、資料をご覧いただきたい。平成22年第4回定例会及び日曜議会での質問事項 である。小林議員からは人道橋の整備について。関根議員からは体育館の民間委託の 検証について、紀議員からは、再び問う、WEB図書館の導入を行うべき、中山議員 からは清里山荘シャトルバス事業の評価についてという質問が出されている。また、 平成22年は1年を通して生涯学習部に関連する陳情・請願の採択は無かった。以上 である。				

(本川議長)

質問だが、採択されたものがないとは、どのようなことを意味するのか。

(渡辺生涯学習部長)

陳情・請願が議会で採択されると市長に送付される。その内容については尊重する立場で市政を行うこととなる。財政等の理由から全て実現されるとは限らないが、検討をした上で実現に向けて努力するということであるので、陳情・請願の採択というのは重みのあるものであると考えている。逆に不採択になると、市としては特に何もしない。

平成22年で生涯学習部に関連する不採択になったものは、図書館の運営に有償ボランティアを導入することを求める陳情書、貫井北町地域センターの建設予定地の再検討を求める陳情書があげられる。

## 1 協議事項

### (1) 平成23年度教育施策について

(尾崎生涯学習課長)

平成23年度の教育施策の変更案について説明する。

(1) 生涯学習の推進であるが、①「誰もが生涯にわたって」というところを「市民一人一人が生涯にわたって」として、基本方針と全体的な言葉の統一を図っている。次に③「地域の貴重な資源である大学」というところに「文化施設」を追加した。次に④「団塊の世代等定年退職者」としたところであるが、「退職後等の高齢者」という幅を持たせたような表現に変更した。

(2) 青少年教育の推進で、②「『放課後子ども教室』事業を地域と一体となり推進」というところを、「家庭、学校、地域と一体となる活動を支援する」と変更した。

(3) スポーツ・レクリエーション活動の推進のところで、⑤「平成25年に予定されているスポーツ祭東京2013に向けて、準備を促進させる。」を追加した。

(4) 文化財の保存と啓発活動の推進のところで、②の市史編さん事業については、現在、2部門の専門部会を設置しているが、23年度からは3つの専門部会を設置して、発刊に向けた取り組みを行っていることから、このように改正するものである。③の文化財等の団体の支援についてであるが、具体的に支援している団体を明記した。④の玉川上水・小金井桜整備活用計画についてはソメイヨシノと混同されないようにヤマザクラという表現に変更した。

(7) 社会教育施設の整備の④については、平成25年に予定されているスポーツ祭東京2013に向けて総合体育館の整備を図るということから追加した。⑤図書館本館についても、空調機器の一定の整備が進められるということから追加した。

続いて、図書館に関する部分を図書館長から説明する。

(田中図書館長)

①についてだが、いつでもどこでもだれでもが利用できる図書館運営ということで、図書館運営の基本的な考えを示している。②については、平成元年12月に策定された図書館運営方針について議会から見直し求める意見があったので、見直しに着手する。③については、(仮称)貫井北町地域センターに関する項目である。④の「多様化、高度化する市民要望に応えるため、」これは貫井北町についてインターネット及び電子資料の導入等に関する部分である。⑤は、資料の長期保存と活用を推し進めるため、平成2年から開始した定点撮影に関する項目である。⑥は、子どもの読書活動の推進に関する項目である。

(佐野委員)

青少年教育の推進のところで、支援と推進で言葉は変わっているが、どのような意味の変化があるのだろうか。

(尾崎生涯学習課長)

基本的には今の放課後子ども教室事業について、実行委員会形式ということで、地域全体でこれらの事業を進めていくというような方向性があり、市もそれをバックアップするという体制の中で支援という言葉を使ったのだが、大きな意味の違いは無い。

(倉持委員)

同じところだが、意味が通じにくい部分がある。細かいことではあるが、意味が複数伝わらないよう、文章を再構成したほうが良いと思う。

(尾崎生涯学習課長)

検討する。

(小林委員)

図書館長に質問する。定点撮影というのはどのようなものか。

(田中図書館長)

平成2年から市内の18カ所について、その変遷を記録するため毎年同じ場所で写真撮影している。

(小林委員)

撮影地点は平成18年から変更がないのか。

(田中図書館長)

撮影地点は開始当初に比べて若干増えている。また若干撮影の角度を変えているようなことはある。現在は公開が難しいが、将来的に電子データ化して広く公開したいと考えている。

(佐野委員)

(3)のスポーツ・レクリエーション活動の推進というところで、②複合型地域スポーツクラブの活動を支援するとうたってあるが、期限があるのかどうか教えていただきたい。

(宮腰スポーツ担当課長)

現時点で支援の期限は設定していない。しかし、将来的には行政の支援を必要とし

ない独立組織になっていく必要があると考えている。

(倉持委員)

(5)の公民館については公運審で議論がされているということであるが、(6)の図書館について図書館協議会では議論をされていないのか。

(田中図書館長)

今回は図書館協議会には諮っていないが、次回以降検討したい。

(樹委員)

細かいことだが、(1)の④の退職後等の高齢者という表現があるが、現在の退職者層の活動状況からみると高齢者という表現は相応しくないと感じた。

(倉持委員)

私も同意見である。退職後というと、どちらかというと男性的なイメージがある。表現の難しいところであるが、何か良い意見のある方はいるだろうか。

(佐野委員)

私も高齢者というと80歳代ぐらいを想起させる。適当な表現は無いものだろうか。

(本川議長)

そういった意味では中高年という表現が無難かもしれない。

(小林委員)

私が話すときはシニア世代とかと話すことが多いが、社会教育上の言葉となれば、また違ってくるのだろうか。

(伊藤副議長)

「退職前後の世代を対象として」とか。

(佐野委員)

退職といっても、60で退職もあれば65で退職もあるし、場合によっては70で退職というのもあるので、それが一本では切れない。年齢でも切れないし、勤めているかいないかということでも切れないし、非常にそこは難しい。

(中村委員)

退職前後の中高年層、あるいはシニア世代という文言ではどうか。

(本川議長)

「退職後等」を「退職前後の中高年層」または「退職前後のシニア世代を対象として」。どちらがすんなり入るか。

(倉持委員)

この文章全体の中ですんなりといったら中高年層か。

(佐野委員)

この文章の目的・ねらいを考えると、勤めを終わられて地域におられ、元気にまた地域の中で活動してもらいたい人を、行政として学習の機会や情報を提供して、生活をしてもらいたいというようなことじゃないかと感じているが。私は先ほど中村委員がおっしゃった中高年層というのが当てはまるのかなと感じた。

(本川議長)

では、「退職前後の中老年層」ということでいいだろうか。

(「はい」の声あり)

(尾崎生涯学習課長)

では、修正に関しては議長と協議し決定してよろしいか。

(「はい」の声あり)

## (2) その他

(本川議長)

その他だが、小委員会について倉持委員から報告をお願いします。

(倉持委員)

第5回小会議に公民館長と公民館事業係長に同席してもらった。

現在の大きな課題としては、地域ネットワークづくりに向けてということだが、これまでの社会教育委員の会議やそれ以外の生涯学習関連の委員会で積み重ねられてきた提言をベースにしつつも、少し地域ネットワークづくりを具体化していく形で進めていけないかというのが小委員会の議題だった。

長期的な目標としては、地域ネットワークづくりの拠点づくりということで、拠点となるべき場所、施設あるいはシステムというような部分があげられる。しかし実現には多くのハードルがあるので、その前に中期的な目標ということを経験してきた。

その中期的な目標というのは、地域ネットワークづくりや拠点づくりのために、生涯学習祭り、フェスティバル、祭典のようなものを実際に地域のネットワークをつくる活動のきっかけづくりをしていこうというものである、

さらに、小さな目標として、社会教育、生涯学習関係の組織、市民を中心とした委員会や組織や公民館をめぐる組織、意欲がある市民の方をあわせて、運営組織とか準備組織をつくっていく必要があるだろうということである。その中心となってくるのはやはり社会教育委員、公運審、図書館協議会であるが、市民と一番近い目線での実働的な能力を有している部分ということを考えると、公民館の各館にある企画実行委員の協力が不可欠である。図書館、公運審、社教委という部分と企画実行委員もあわせた準備会の組織というのを、この年度で実現できればと思っている。まずは三者懇談会を少し拡大していくことが第一歩である。このことを代表者の打合せで提案できればというのが、先日の小委員会で話し合ったことである。

(本川議長)

報告ありがとう。この場を借りて公民館長と係長にもお礼を言いたい。

(大関公民館長)

今、倉持委員から5月の三者懇において、企画実行委員との意見交換会を短期的な目標として行いたいとの提案があったが、昨日、職員の全体会議があり、各分館長に

はこの間の小委員会の報告をし、ぜひ企画実行委員が、どんなことをやっているのかということを知りたいという話があったので、毎月やっている企画実行委員の会議で伝えてもらいたいと依頼したところである。

(本川議長)

まだ調整中だが、三者の代表者の事前打ち合わせ会がある。その場でも協議を深めていきたいと考えている。

(倉持委員)

先程も話したが、企画実行委員との意見交換等を、どの場でそれをやるのがいいか皆さんのご意見を伺いたい。三者懇は既に設定されている場なので、一番リアリティがあるというか、わざわざ集める必要がないというのがある。図書館にとっても情報ネットワークづくりには関心のあるところであると思うし、地域活動の拠点という意味では公民館がかなり中心になってやっていると思うので、そういう意味では、三者懇でやるテーマとしてはふさわしいと思うが、そこは三者の委員長同士の話し合いで、うまく議長が出していただけるということになるのではないかと考えている。

(本川議長)

今話したことを含めて、全体の話題として地域ネットワークづくりというのが、皆さん推進しようという意識は十分お持ちなので、今度の三者の代表者のときに協議したいと考えている。

(佐野委員)

質問だが、前回の会議で私が地域ネットワークづくりのことで質問させていただいたときに、副議長から示された資料を読んだが、ここに放課後子どもプランのことが随分書かれていて、活動を随分されている。これを活用したらどうかということも書いてあったと思うのだが、どのような話し合いをされているのかが1つわからない。議事録があるのかどうか教えていただきたいのが1つ。また、そこで話されている内容が地域のネットワークづくりに活用できるのであれば、ここにも書いてあるが、活用したらどうかと思った。先程、倉持委員から長期と短期というような計画のお話があったが、実現はなかなか難しいそうだという印象を持った。いろいろな会議でコンセンサスをとることはできても、実際にそれを実行するに当たって、じゃあどうするかというのが大きな問題になってくると思うので、私は、ある程度この子ども放課後プランで非常に活発にやられている地域を1つのモデルケースにして、そこに1つ立ち上げて、集中的に力を注いで、こういう形になるといいなというものをつくり上げれば、形としてわかるわけだから、今後やりやすくなるのではないかと考えたところである。

(尾崎生涯学習課長)

現在、市内には小学校が9校あって、すべての小学校区で放課後子ども教室が実施されている。その中の4つの学校区で実行委員会形式ということで、地域の方も含めた形の組織の中で運営されており、今後5年ぐらいの間ですべての小学校区でそうい

った地域の方を巻き込んだ実行委員会形式の組織にしていこうと取り組んでいる最中である。しかし、実行委員会形式でやっているところも組織的にはまだまだ弱い部分もあるので、1つのモデル地区というのは、まだやりにくい部分もあるかなと思う。

(本川議長)

佐野委員、社会教育委員からは小林委員が放課後子ども教室の運営委員として出向しており、後ほど報告があるはずである。

(倉持委員)

今考えている地域ネットワークづくりの情報の収集と提供について議論しているが、小金井の情報をもっと幅広く、生涯学習部で関わっている部分なんかは少しきちんと声をかけられるように、イメージの中に入るような形でやっていただけたらと思う、生涯学習祭りと言っちゃうと、何かすごく逆に狭まってしまうような気もしていて、私たちがやっていることは別に生涯学習ではないと思う人もいるかもしれないし、こちらから見て生涯学習でも、本人たちは思わない、さっきの中高年の話ではないが、そうかといって市民祭みたいなことはちょっとおかしいわけで、どういう形がいいのか少し、アイデアを今後出し合っていければとは思った。

(本川議長)

確かにネーミングというのは大事なことだと思う。身近な公民館、図書館、社会教育委員の会議というところで話し合っ、三者が力を合わせて進んでいくのがベストだろうというふうにアドバイスもいただいたので、三者懇を有効に機能させて行きたいと考えている。

(佐野委員)

先日の新聞に載っていたのだが、国として放課後児童クラブを増設すると。小金井市がやっている放課後子ども教室はそれとどういうふうにタイアップしていくのかと思っているのが1つある。だから、ネットワークづくりには今一番適している機関ではないか、既にあるものを使っていくのを進める上で非常にいいのではないかと私は感じた。

(本川議長)

やはり物を実行する、実現するには、核になるところがないと、言っているだけでは何もできない。核になるものはどこだろうと思っていたら、社会教育委員の会議はもちろん大きな1つだが、それよりも三者懇談会としたほうがもっとより大きな力になるのではないかと考えている。

(尾崎生涯学習課長)

今、佐野委員が発言した放課後学童クラブというのは、厚生労働省の事業で、小金井における学童保育所に当たるものである。放課後子ども教室はそれに限らず、すべての子どもの放課後の居場所づくりということである。

(本川議長)

他に小委員会の報告について質問や意見等がある人はいるだろうか。いないようで

あれば、ここで話し合った内容でもって三者懇談会の代表者打ち合わせをしたいと思う。

(小林委員)

では、放課後子ども教室運営委員について報告する。昨年12月1日に情報交換会があったが、この情報交換会は昨年5月に行なわれた説明会において要望を受け実施されたものである。また、参加協力団体を対象としたアンケートがあり、結果について運営委員会で配付された。コーディネーターに関することや、運営方法に関すること等、様々な議論がなされた。また、田中委員長のほうからは、組織のことや謝金のこと等、運営委員会の機能やあり方について意見があった、私も運営委員会と実行委員会の相互の理解を深めることの必要性について意見を述べた。行政側と現場側と運営委員会と、まだまだ連携というところでは課題も多い。やはり、学校という場で活動していることもあり、今後は指導室との連携も必要になると思う。そういう連携のことにしても、非常に活発な意見交換をするような雰囲気できているので、今後は更に活発な意見交換ができると思う。最後に議題について報告するが、平成23年度の運営委員会の団体推薦があるということと、平成23年度参加団体説明会の実施時期についてということだった。この実施時期については、ほぼ例年どおりだということ、大体5月中旬ごろになるというお話があった。それについては実施計画資料をいただいている。

(本川議長)

放課後子ども教室は小林委員、それから貫井北町地域センターは中村委員に、図書館が浦野委員ということだが、このように情報交換は非常に重要である。それでは、ほかに何かなければ、報告に移らせていただく。(1)は冒頭に済んだので報告に移る。

## 2 報告事項

### (2) 第23回多摩郷土誌フェアの報告について

(尾崎生涯学習課長)

資料を御覧いただきたい。第23回多摩郷土誌フェアについて報告する。平成23年1月21日から3日間立川で行われた。参加自治体が28自治体である。販売書籍一覧は全部で88冊の3万3,400円である。裏面はチラシを参考に添付した。

(佐野委員)

このフェアは毎年行われているのか。

(尾崎生涯学習課長)

毎年実施されている。近年は同じ時期・同じ場所で、各自治体持ち回りで実施している。行政の方だけでなく地域や歴史に興味のある多くの市民に来ていただいているところである。

### (3) その他

(伊藤副議長)



配布された青いチラシについてだが、公民館の講座である、興味のある方がいたら参加してほしい。

(佐野委員)

直接この会議とは関係ないが、27日に東京マラソンがある。ランナーにとってギャラリー、応援していただく方が多いほど力が出るので、もしお時間があれば銀座とか浅草等に買い物ついでに応援してもらえると非常にうれしい。お時間があればよろしくをお願いします。

(本川議長)

では、第8回社会教育委員の会議を閉会する。ありがとう。

以上